

「令和7年度 次世代高知県総合教育会議」

開催日 令和7年7月25日（金）13:30～15:30

開催場所 ザ クラウンパレス新阪急高知 4階「フローラ」

(司会)

定刻となりましたので、ただ今から、「令和7年度次世代総合教育会議」を開会いたします。私は、司会を担当します高知県総合企画部政策企画課の戸梶と申します。よろしくお願いいたします。

本県では、教育施策を計画的かつ着実に前進させるための羅針盤として「第3期教育等の振興に関する施策の大綱」を策定しております。

本日の会議では、この教育大綱改訂の参考とするために、教育の当事者である高等学校や特別支援高等学校高等部の生徒の皆さんの意見を直接お伺いし、知事や教育委員等と意見交換を行います。この会議は今回で3回目となり、本年度は『『自分の未来・夢について』～高知家の生徒一人一人の夢を実現するために理想的な学校・教育とは～』というテーマに基づき、県内の高等学校や特別支援学校に在籍されている5校・6名にご発表いただきます。

それでは、本日の会議出席者を紹介いたします。濱田知事です。

(濱田知事)

知事の濱田です。今日はよろしくお願いいたします。

(司会)

今城教育長です。

(今城教育長)

教育長の今城です。よろしくお願いいたします。

(司会)

教育委員は3名ご出席いただいています。池教育委員です。

(池委員)

教育委員の池です。どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

弥勒教育委員です。

(弥勒委員)

教育委員の弥勒です。よろしく申し上げます。

(司会)

町田教育委員です。

(町田委員)

教育委員の町田です。よろしくお願ひいたします。

(司会)

続いて、ご発表いただく高校生の委員です。窪川高等学校羽屋戸優花委員です。

(羽屋戸委員)

窪川高等学校の羽屋戸です。よろしくお願ひいたします。

(司会)

伊野商業高等学校藤本蒼波委員です。

(藤本委員)

伊野商業高校の藤本です。お願ひします。

(司会)

日高特別支援学校高知みかづき分校、西内陸仁委員、同じく奥村めい委員です。

(西内・奥村委員)

よろしくお願ひします。

(司会)

土佐女子高等学校前田玲委員です。

(前田委員)

土佐女子高校2年前田です。よろしくお願ひします。

(司会)

岡豊高等学校山下蒼生委員です。

(山下委員)

山下です。よろしくお願ひします。

(司会)

それでは、開会に当たりまして、濱田知事から挨拶を申し上げます。

(濱田知事)

皆さま、こんにちは。知事の濱田でございます。今日は大変お暑い中、また、お忙しい中、本年度の次世代総合教育会議にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。また、特に、高校生の皆さんには、今日の発表に向けまして、さまざまな準備を入念にいただいたとお聞きしております。本当にご尽力ありがとうございます。

さて、この会議は今回で3回目になります。2年ほど前に、国でも「こども家庭庁」という新しい役所ができました。それまで、子どもに関する施策が、文部科学省や厚生労働省といった様々な省庁が担当しておりましたけれども、今、少子化が進み、子どもの非行問題があったり、あるいは、児童虐待の問題があったり、子どもをめぐる問題が社会の大きな関心になっています。その中で、国の体制を立て直して、子どもに関する問題を一元的に扱う新しい役所をつくらうということで2年ほど前から「こども家庭庁」というのができております。

そして、国全体として、こどもまんなか社会をつくっていこうというスローガンのもとに、子どもの利益を第一に教育や福祉といったものを考えていこうという動きがあります。そうした大きな流れがある中で、高知県におきましても、この総合教育会議というのが、知事と教育委員の皆さまが年3回ないし4回、県の教育施策の在り方について議論をしているわけでありまして。特に、当事者である高校生の皆さんの声を、年1回は少なくともお聞きしようということで、この時期にこうした形で、次世代総合教育会議という名前で意見交換をさせていただく機会を設けております。

現在、まさしく当事者として、高校教育、学校教育を受けておられる高校生の皆さんのお声を聞けるというのは、私もめったにない機会でありまして、大変楽しみにしてまいりました。ご存じかと思いますが、高知県は少子高齢化が全国に先駆けて進んでおります。人口減少も、全国に先駆けて進行しているということがありまして、毎年、県の人口は、残念ながら1万人以上減って、今年の人口は65万人の大台を切りました。どうしてそうなっているのかと言いますと、非常に高齢化が進んでお年寄りの方が多いため、年間亡くなる方が1万人以上おられる一方で、生まれてくる赤ちゃんが3,000人ぐらいですので、そのギャップだけで、1万人近い人口減少が毎年起こるといようなことが続いております。この人口の年齢別の構成はすぐ変わるわけではありませんから、この大きな傾向は続くと考えざるを得ないという状況であります。

これがずっと続きますと、高知県が将来にわたって元気な県として、しっかり皆さんに愛される県になっていけるかどうかというところが、おぼつかないんじゃないかという心配もあります。総人口が減っていくことはある程度仕方がないんですが、35歳以下の若者の人口の減少を早く食い止めて、将来にわたって希望が持てる、元気で明るい未来を高知県に切り開いていきたい、そんな政策を今のところ展開しているところであります。

そういう中で、これは高知に限りませんが、今、日本全国の地方が若者や女性に選ばれ

る、そういう地方にならないといけないということを大きな課題として掲げています。そうした中で、大変大事な観点が、やはり、若者・女性の視点を大事にしていく、ご意見を大事にしていくことだと思います。例えばですけれども、男は仕事、女は家庭といった昔ながらの固定観念を押し付けるのではなくて、今は、多様な考え方を柔軟に受け入れて生かしていくという形をとりながら、社会全体も意識改革をしていかないといけない時代になっていると思います。

そうした中でこそ、まさしく、若い高校生の皆さんたちの生のお声を、特に学校の教育に関して、授業や部活動も含めまして、どんな学校生活を送りたいかという希望について、直接ご意見を聞かせていただき、また、ご自身の将来の夢や希望についても語っていただける機会があると伺っています。そうした生の声を聞かせていただいて、何とか若者、そして女性にフレンドリーな高知県を早く実現して、皆さんもいろいろな夢をお持ちの中で、その夢を高知で叶えていただくのが、私にとってはベストのシナリオでありますけれども、なかなか高知にある選択肢は限られております。一旦は、都会へ出たいという方も多いかもかもしれません。それはそれで、私は拍手を持ってお送りしないといけないと思っております。しかし、いつかまたそうした中でも、人生長いですから、この高知にまた帰って来ようと思ったり、そして、仮に帰って来れなくても高知のために何か役に立とうと思ひ、応援団になっていただけるということは、非常にありがたいなと思っております。そのためにも皆さんが、中学、高校という人格形成の時期に、高知で一生懸命学んで、また、地域の方々とも知り合って、高知というものを、俗に言えば高知を愛していただくと、故郷をちょっとでも好きになっていただくということは、本当に私にとっては大事な課題解決にもなります。そうした大きな流れの中でも、本日大変貴重な機会をいただいていると思います。限られた時間ですが、皆さんの率直な思いをお聞かせていただいて、今後の県政、そして教育行政の中に役立てていきたいと思ひます。本日は、どうかよろしく願い申し上げます。

(司会)

ありがとうございました。それでは、高校生の委員の発表、意見交換に移ります。ここからの進行は、県教育委員会事務局教育政策課の三木課長にお願いします。

(三木課長)

失礼いたします。ファシリテーターを仰せつかっております、高知県教育委員会事務局教育政策課長をしています三木と申します。よろしく願いいたします。座って失礼いたします。

6月からずっとこの会に向けて、皆さまと一緒に、いろいろとお話させていただきながら準備を進めてきましたけれども、今日、いよいよ発表ということで、皆さまのお話を伺えるということ、私としても楽しみにしております。また、今日、この会場にいる教育委員会の職員一同も、皆さまのお話を伺って、ぜひ、高知県の教育にどうということが反映できるだろうか、どういうふうに改善できるだろうか、ということを考えていきたいと思

っておりますので、よろしくお願ひいたします。

では、発表の流れについて改めて確認をさせていただきます。お手元の次第に「発表資料」として記載されている順番で各委員さんから発表いただきたいと思います。発表が終わるごとに、他の生徒の委員の皆さま同士で意見交換をいただいて、その後、教育委員の皆さまや、場合によっては知事や教育長から意見交換、コメントをいただくという流れを考えてございます。

目安といたしまして、1つの発表において、大体、発表・意見交換を合わせて18分ぐらいでまとめて進めさせていただきたいと思っておりますので、進行にご協力をお願いいたします。

それでは、早速、この表示されていますテーマ『「自分の未来、夢について」～高知家の生徒一人一人の夢を実現するために理想的な学校・教育とは～』というテーマで各委員の皆さまから発表いただきたいと思います。まず、窪川高等学校の羽屋戸委員から発表をお願いいたします。

(羽屋戸委員)

最初に発表させていただく窪川高校2年の羽屋戸優花です。よろしくお願ひいたします。「理想的な学校の姿、教育の在り方について」発表させていただきます。

今回のテーマが「自分の未来・夢について」ということで、最初に、私の将来について伝えさせていただきます。私の将来の夢は、小学校の先生です。私自身、保育園から高校までずっと窪川で、窪川保育園、窪川小学校、窪川中学校、現在は窪川高校に通わせていただいているんですけど、県外からいらっしゃった人に、窪川はとても人が温かいねと言ってもらえることが多く、私もそう感じているので、将来は緑が多く人が温かい窪川で働きたいなと思っております。

ということで、次に理想的な学校の姿、教育の在り方について発表させていただきます。今回は3つのステップで発表させていただきます。まず、最初に窪川高校の特徴をお話しさせていただいた後に、高知県の教育課題、その後に、教育課題に対する解決方法の提案といった流れで発表させていただきます。

まず、最初に窪川高校の特徴を5つ紹介させていただきます。まず、窪川高校は地域に根ざした教育に力を入れていまして、例えば、窪川内の事業者さんを訪問してお話を聞いたり、窪川の地域との関わりをととても大事にしています。

次に、海外と書かせていただいているんですけども、窪川高校は海外に触れる機会が多いと思っております。私自身も去年カナダにホームステイに行って、今年も韓国に行かせていただくので、とても海外と交流する機会が多い高校なのではないかと思っております。

次に、ICTというのは、窪川高校は、令和6年に県西部の中山間地域で唯一DXハイスクールに指定されていまして、ICTに特化した教室が1つ窪川高校内にあります。

次に、「じゅうく。」というのは、窪川高校と連携している町営塾でして、学校以外にもそういった学べる場所があります。

地域課題研究というのは、学年ごとにテーマが違うんですけども、今年、私は文化祭

について研究しています。例えば、地域の事業者さんに協力したりとか、地域と提携して行っています。

次に、高知県の教育課題についてお話しさせていただきます。私は2つ教育課題があると考えています。まず1つ目は、自分で考え行動する経験が少ないと思っています。2つ目は、将来の仕事について、具体的に考える機会が少ないという点です。

自分で考え行動する経験が少ないという問題に対しての提案は、プロジェクト課題を増やすことで解決できるのではないかと考えています。

現在、窪川高校では、プロジェクト課題が行われているんですけども、「夢・志発表会」といって全校生徒が全校の前で発表する機会があります。全校生徒が発表するのは、生徒の前だけではなく、協力いただいている地域の方々や保護者を招待して、地域全体の前で発表しています。1年生、2年生、3年生とそれぞれが違うテーマで発表していきます。実際、私がプロジェクト課題を行って身につけたのは、自分で考えて行動する力や人前で発表する力、チームで協力して解決する力だと思っています。プロジェクト課題を行う上で、このような力が身につくので、とてもプロジェクト課題は大事なんじゃないかなと思っています。あと、この3つ全部は将来仕事をする上で必要ではないかもしれないんですけど、3つ中の少なくとも1つは、何かしら必要になる力だと思っています。

2つ目の課題の提案、将来の仕事について具体的に考える機会が少ないという点の解決方法は、職場体験など、将来を考えながら体験できる教育が広がればいいと思っています。具体的にイメージできないと、自分が関わる大人の職業でしかイメージできなかったり、迷ったまま、ずっと迷ってギリギリまで決められないとか、ギリギリまで決められないと選択の締め切りが迫っていくので、取りあえずで決めがちだったりします。また、本来、早く決めていたらできた準備がギリギリまで決められない、決められてなかったせいで必要な準備ができなかったり、大人になって、学生するときでは分からなかった職業に出会って後悔したりする可能性があると思っています。なので、将来の仕事を体験することで、具体的にイメージができ、必要な準備に早めにとりかかったり選択肢が広がったり、このようなデメリットを解決できるのではないかと考えています。

これらの提案を実現することによって、私たちのよりよい進路につながると考えます。以上です。ご清聴ありがとうございました。

(三木課長)

羽屋戸さん、ありがとうございました。ご自身の窪川高校での経験からプロジェクト課題や探究的な学びというのがもっとあった方がいいんじゃないかということ、それから、将来の職業とか、あるいはキャリアをもっと知っていくような機会っていうのがどんどん増えてらいいんじゃないかと、そういった発表だったかなと思います。

では、今、羽屋戸さんからいただいた発表について、生徒委員の皆さんから何か感想や質問とか、こんな発表していたけどもうちょっと詳しく聞きたいということがあれば、お伺いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。では、順番にいきましょう。では先に西内さん伺いましょうか。

(西内委員)

将来の夢が小学校の教師とありましたが、何かきっかけってありますか。

(羽屋戸委員)

まず、子どもが好きというのがとても大きくて、将来を考えた際に、自分の人生を振り返ってみて、小学校がとても印象に残っていて、とてもいい先生にも巡り合えたので、そのような先生になって自分も子どもを助けたいなと思ったのが理由です。

(西内委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

ありがとうございます。では、続いて藤本委員をお願いします。

(藤本委員)

羽屋戸さん自身、もう海外に行ったことがあるということで、海外に行ったときに、どんな学びというか、こういうことを感じたなっていうのがあれば教えてほしいです。

(羽屋戸委員)

私が実際、1年生のときにカナダに行かせてもらったんですけど、私が一番印象に残っていることは、日本の人は、ありがとうも出ると思うんですけど、ありがとうよりごめんなさいが出ることが多いなと感じています。向こうでは日本人がごめんなさいというときに、ありがとうを使っているので、何かそういう文化、価値観が頭の中で広がったなと思います。

(藤本委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

ありがとうございます。将来の夢、きっかけのことなどとか、海外の体験でどういう学びがあったかとか、非常に深みのあるところに発表が繋がっていったのではないかなと思います。他の委員の皆さんからの質問があれば、お願いします。

(前田委員)

将来の夢は学校の先生とお聞きしましたが、今、夢や将来に向かって学校の勉強以外にしていることがありますか。

(羽屋戸委員)

将来に向かって行っていることは、「じゅうく。」です。先ほど、町営塾「じゅうく。」と紹介したんですけど、「じゅうく。」で、それこそプロジェクト課題のような、自分で考えてアクションを起こすっていうのがあるんですけど、今回小学生向けに「夏の寺小屋プロジェクト」といって宿題を見たり、夏休みの工作を一緒に仕上げたりするっていうのを考えて、アクションを起こそうとしています。

(前田委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

ありがとうございます。具体的な行動までされているんですね。

ということで、多分、山下さんも手を挙げておられたと思うんですが、ちょっと時間の配分がございましてすみません。また、他のときにぜひお願いできればと思います。教育委員の皆さまからいかがでございましょうか。では、池委員お願いいたします。

(池委員)

教育委員の池です。羽屋戸さん、素晴らしい発表ありがとうございました。まず感じたことは、皆さまもおっしゃってくれておりますが、将来の夢が小学校の先生ということに非常に感動しています。ありがとうございます。

やっぱり、教育というのは自立した人間を育成するっていう役割と、それから、社会の構成員としての有能な人材を育成するっていう大きな役割を担っていると思います。個人の成長と社会の発展において、あるいは、四万十町や高知県や日本の国の発展において非常に重要な役割を果たしている大切な仕事だと思っています。

特に小学校の先生をご希望ということですが、先生の仕事は、子どもたちが自立できるようにサポートすることがすごく大事です。知識とかスキルを教えるだけの先生ではなくて、豊かな人間性も高校時代に育んでもらいたいと思います。スポーツであるとか文化であるとかということについても、広く知見を広げていただきたい。というのは、子どもから見たら、本当に身近な大人なんですね、先生っていうのは。それから、やっぱり羽屋戸さんのように目標にしたい人物、大人であってほしいと自分も願っています。ぜひ、羽屋戸さんは、いい先生になっていただきたいと思います。

それから、あとは職業体験、キャリア教育のご提案なんかもしていただきました。羽屋戸さんもカナダへ留学された経験がおありだということですけど、自分も、留学した生徒さんにお話を聞く機会がありました。そのときに、外国の方は、小さいころから就きたい仕事とか、将来の夢っていうのは持っておって、しかも、はっきりそれはみんなの前で話すことができます。一方で、日本人の自分は、それが大学入って決めようとか、そういうイメージで先送りしておったんで、すごく恥ずかしい思いをしたっていう話を聞いたことがあります。

やはり、何のために学ぶか、勉強するかっていう根本には将来の夢を実現する、自分がなりたい仕事に就きたい、そのために必要なことを今学ぶという、それが一番の目的ですよ。だから、大学に合格することだけが目的だったら勉強は辛いです。だから、ぜひ、委員さんの提案のように、キャリア教育もどんどん推進していきたいと思います。県教育委員会も手助けしていきたいと思います。

それから、高知県内にはすごい優秀な企業がたくさんあって、企業の紹介をした冊子が各学校に送られていると思います。全ての職業を体験するというのは不可能ですので、ぜひ、冊子にも目を通していただいて、高知県にもこんな素晴らしい企業があるっていうのを見ていただきたいと思います。

また、窪川高校はDXハイスクールで全国的にも先進的な取り組みをされているから、デジタル等も活用して、自分にマッチした仕事を、ぜひ探すようにしてもらいたいと思います。

それから、和田校長先生は、教員時代に普通科の中でキャリア教育を先進的に進めてきた一人だと思います。きっといいアイデアを持っているから、校長先生にも相談していただいたらいいと思います。どうもありがとうございます。

(羽屋戸委員)

ありがとうございました。

(三木課長)

池委員、ありがとうございました。羽屋戸さんからトップバッターとして、非常に素晴らしい発表をいただいたのではないかなと思います。改めて、ありがとうございます。

では、続きまして、伊野商業高校の藤本蒼波さんから発表をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。

(藤本委員)

皆さん、初めまして。伊野商業高校3年ICTコースの藤本蒼波です。それでは、早速発表を始めます。

まずは、僕の将来の夢やなりたい理想像のことについて語らせてください。職場の中でリーダーシップを発揮し、多くの人を導くことのできる管理職に就きたいというのが僕の夢です。その中で、一人一人の個性や強みをしっかりと理解し、その人たちが最大限に力を発揮できるようなサポートができるような人になりたいという、具体的なところまで持っています。ですが、今言ったようなことは決して簡単なことではないと思っています。誰からも信頼され、慕われるリーダーになるためには、日々努力を重ね、常に学び続け、自分自身も成長し続ける覚悟を持って、この夢を叶えたいと思っています。

僕がこのような人間になれたときには、職場の雰囲気や環境にいい影響を与えられると思っています。また、職場だけにとどまらず、社会全体にいい影響を与えられる人間になりたい、これが僕の最終的な夢であり、自分の理想像になります。

僕は、今、高知銀行に就職しようと思っているので、高知県の活性化にも尽力したいと考えています。

今回、この次世代教育会議を行うに当たって、学校の先生たちや高知県教育委員会や高知県庁の職員といった大人たちが一つ共通しているのは、学校は僕たちが社会に出て、自分らしく、豊かな人生を送れるために必要な力を身に付ける場でなくてはならないという考えを持っていると資料に記載されていました。この意見には僕も共感し、この考えを目標にするべきだと感じています。

ですが、この目標とは裏腹に、現状はそこまでいいものではありません。今、僕たちの世代は、何のために学校に来ているのかと聞かれると、大体の人はこのように答えると思います。卒業後の進路があるから、友だちと会えるから、部活に行かなければならないから、単位を取るため、人によっては学校に来なければ先生に怒られるからという人もいます。この格差から僕が感じたのは、本来、義務教育ではないはずの高校で、僕たちは、今、義務感を感じながら学校に行っているという現状です。

僕は、今回この会議に参加するに当たって、僕が現在通っている伊野商業高校の2、3年生を対象にアンケートを行いました。1つ目の項目として、僕は、皆の将来の夢や自分はこうなりたいという理想像について聞きました。それぞれにしっかりとした考えや思いがあり、アンケート結果は、将来の夢や自分の目指す理想像をイメージできているのが140人中121人でした。また、イメージできていない人は残りの19人。これは全体の86%は自分の将来がイメージできているというアンケート結果となっています。

次に、今学校に来ていて楽しいかという質問にも答えていただきました。すごく楽しい、そこそこ楽しい、あまり楽しくない、全然楽しくない、この4択から答えていただきました。すごく楽しいが全体の22%、そこそこ楽しいが59%、あまり楽しくないが14%、全然楽しくないが5%という結果になりました。この質問した人に、なぜ、今その答えになったのかという質問も同時にしました。楽しいと答えてくれた人の意見では、友だちと話せるからなどの、友だち関連の理由が多く見られました。反対に、楽しくないと答えてくれた人からは、学校の先生に相談しにくいや人間関係の形成が難しいなど、さまざまな意見が見られました。

今の学校で変えてほしい点や、皆さんなりに考える改善点を聞きました。この場では、とても多かった2つの意見を紹介します。一番多かった意見としては、教室のエアコンの温度をもう少し下げられるようにしてほしいとのことでした。この意見に関しては、季節的なものもあり、この意見を出す人が多かったのかなと感じました。2位は、学校の食堂を復活させてほしいという意見でした。伊野商業では、2年ほど前から食堂が閉鎖してしまいました。その理由は、食堂を経営してくれていた会社が赤字になってしまい、契約ができない状態になってしまったと聞いています。伊野商業の食堂はすごく広くて、僕が1年生のころは、生徒からものすごく親しまれていて、いい場所だと思っていました。ですが、食堂が閉鎖してからは、ずっとシャッターが閉まっていて、生徒が立ち入れない場所となってしまいました。

以上の2つを改善することによって、学校の楽しみが増えたり、集中して勉強に取り組

めたりすると思います。

少し話はさかのぼりますが、学校のアンケートでの楽しくないという意見、これを楽しみに変えることが僕は大事だと思っています。楽しくないと答えた人を楽しいと答えてくれる人に変える具体例を出すとすると、学校の授業の中での具体的な目標設定と、毎日の授業をより魅力的なものにするというものを考えました。

生徒一人一人がしっかりと思考し、授業の中でそれぞれの課題を発見し、その課題を解決するための小さな目標の設定、その個人の小さな目標をこまめに達成していくことによって、小さな達成感から、やがては大きな達成感に変わり、学校での授業を魅力的に感じることができて、また、学校での授業を義務感を感じながら受けるのではなく、自分が学びたいから授業に参加するという、生徒の意識改革にもつながると思います。まず、これが1つ目の理想的な教育だと思っています。

さらに、現在の地域課題。例えば、少子高齢化や若者の都会への流出など、日本全体ではなく高知県の地域課題という考え方をしただけでも、たくさんの問題が浮かび上がってくると思います。その現在の地域課題の解決に、高校生が密接に関わっていく。そして、その過程で高校生自身も成長していき、未来への可能性を広げていくというこの二つを織り交ぜた教育が必要だと考えます。

現在、伊野商業高校の僕が所属する ICT コースでは少数制ではありますが、高齢者を対象にしたスマホ教室を開こうとしています。震災時に高齢者が少しでも自分の身を自分で守れるように、また、自分の命をあきらめないような取り組みとして、高校生が中心となり、この夏休みに地域の公民館で開催する予定です。このような自然災害の被害を受けやすいという高知県の地域課題に対して、高校生が解決に向け密接に関わっていき、それとともに、高校生の成長を促し、高知県の未来への可能性をつくっていくというのが、僕の考える2つ目の理想的な教育となっています。

最後に、僕が考える理想的な学校の姿をお話します。僕の考える学校は、楽しい場所ということです。価値観は人それぞれで、楽しいと感じる面も本当に人それぞれだと思っています。僕は今、自分自身は高校生活3年間の中で一番忙しい時期だと思っています。進路の話も考えながら同時に進めていき、一人暮らしのための資金づくりでバイトもたくさん入り、学校での希望者のみのイベントなどにも積極的に取り組み、正直、結構詰め込んでいますし、カレンダーを開いたときに、空いている日がないぐらいには忙しい日々を送っています。

ですが、今高校生として進路のことに対して真剣に向き合い、悩んで先生や友だちとぶつかり合ったり、仲良くしたりできるのも、人生の中で高校生として楽しめるのは今だけ。なので、僕の中では、予定がたくさん重なっていてしんどくても、今は、それがただ楽しくて、もっと高校生として人生を満喫したいという思いでいっぱいです。なので、どこまでが楽しくて、そこからは楽しくないなんて、本当に人それぞれだと思います。ですが、その楽しい学校の中で、皆がぶつけ合うことができ、それを、それぞれが理解することができ、今日も学校に行かなければいけないという考えではなく、自ら学校に行きたいから今日も行くという考えを生徒に持ってもらえるのが、理想的な学校の姿なのかなと僕は思

っております。

以上で発表終わります。最後までご清聴ありがとうございました。

(三木課長)

藤本さん発表ありがとうございました。藤本さんご自身は明確な将来の目的だとか、学ぶ意識だとか、そういうものをお持ちのようですが、学校の他の同級生にも聞いていただいた上で、まとめていただいた資料なのですね。学ぶ意義とか目的とかってというのが、もうちょっと分かるようになって、何でも楽しく学べるようになっていくんじゃないかなというお話だったのかなと思います。

では、先ほどの藤本さんの発表に関して、生徒の委員の皆さんから何かご意見ご質問等あればお願いいたします。では、山下委員お願いします。

(山下委員)

生徒の皆さんの意見を調査する上で、大変だったこと何かありますか。

(藤本委員)

ありがとうございます。単純にアンケートをつくるに当たって難しいことになってしまいうんですけど、やっぱり、匿名にしないと自分の心の底の声は聞けないと思います。対面では聞いてなくて、タブレットを使ってみんなに答えてもらうというアンケート方法なんですけど、対面では話せなくても、デジタルというか、自分で文字に打って、匿名であればするよってという人の意見も拾えるようにというのを考えながら作ったので、そこがちょっと難しかったかなと思います。

(三木課長)

ありがとうございます。この調査自体もICTを使ってなされたということなのかなと思います。他の生徒の委員の皆さんからは、何かいかがでしょうか。羽屋戸委員お願いします。

(羽屋戸委員)

将来の夢が、管理職での銀行員ということだったんですけど、銀行員を目指した理由はありますか。

(藤本委員)

銀行員を目指した理由なんですけど、人生のターニングポイントといわれるところに、大体銀行って携わってきたり、何かしら関わりがあると思うので、誰かの人生にすごい密接に関われるっていうのが銀行の良さなのかなと思います。あと、地域貢献っていうところだと、一番分かりやすいというか、有名なのであれば、高知銀行もよさこいのチームとして参加しているので、そういう面で高知銀行全体で高知県の活性化に取り組んでいると

というのが、すごい魅力的に感じたので、そこにしようかなと感じました。

(羽屋戸委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

ありがとうございます。きっかけって気になりますよね。他の生徒の委員の皆さんは大丈夫でしょうか。では続いて、教育委員の皆さまからコメント、ご意見ご質問等あれば頂戴したいと思いますけれども、いかがでございますでしょうか。では、弥勒委員お願いいたします。

(弥勒委員)

教育委員の弥勒です。藤本さん、非常に分かりやすいプレゼンテーションありがとうございました。そしてまた、高校生でありながら将来の夢をかなり明確に持っておられるということは、本当に素晴らしいと思いました。いろんな意味で、多くの人が、ある意味では、学校の勉強が本当に何の役に立つんだろうかと思いつつ、でも、高校卒業、入った以上はやっぱり卒業したいしということで、そのために、半分義務感でいろんな授業に取り組んでいるというふうに感じているという人が、かなりおられるという話も調査結果からあったと思いますけれども、私自身も高校のときに、僕は、いわゆる文系の地理とか歴史とかが、丸暗記させられるのがすごく嫌だったんですね。社会人になってから、例えば、フランスの人が日本の農家のことをものすごくよく知っていて、そういう方と一緒に接するとき、日本の文化や歴史を質問されたときに、僕自身が何も答えられなくてものすごく恥ずかしい思いをしたということがありました。

また、童門冬二さんというすごく有名な歴史の小説を書いている方がおられて、その方の講演を聞く機会があったんですけども、ものすごく面白い話を1時間半ぐらいしていただきました。そのときに感じたのは、こういう先生が歴史のことを、教育のプログラムがいろいろあるのでそんなに面白い授業ばかりを、学校の先生ができるかどうか分かりませんが、そういうことをやってくれたら、僕はもっともっと歴史に興味を持って、自分で勉強したくなっただろうなというふうにも思いました。

将来の夢をもっと明確にしていく上で、いろんな先輩や大人とか、あるいは、いわゆるロールモデルといわれる方が、例えば、いろんな形で探せば見つかるんじゃないかなと思います。そういう人たちのお話を聞く機会をいろんな形でつくっていただくことによって、今やっているその授業が将来の可能性にどういう形で貢献するのか。基本的に勉強というのは、多分考える力をトレーニングする、面白くないかもしれないんですけども、脳トレーニングの一つなんじゃないかなというふうにも思っています。そういう意味で、すごく幅広い意味で自分の成長を促す貴重な機会をこれからも、まだあと数年間、大学も含めればあると思いますので、後悔しないように、有意義に過ごしていただきたいと思っています。以上です。

(藤本委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

弥勒委員ありがとうございます。やっぱり学ぶ意義とか意味とかっていうものを、一人一人の生徒の皆さんが捉えながら、学べるような環境っていうのが、重要なのかなと私も今伺っていて感じたところでございます。ありがとうございます。

(三木課長)

藤本さん、何か言うことありませんか。大丈夫ですか。

(藤本委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

改めて、藤本さん本当にありがとうございました。

では、続きまして、日高特別支援学校高知みかづき分校から西内陸仁委員と奥村めい委員、お2人にお越しいただいていますので、発表お願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(西内・奥村委員)

高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校の2年奥村めいと、2年B組の西内陸仁です。

(奥村委員)

まずは、私たちの学校を紹介します。2年生の社会の授業で学校社会のスライドを作成しました。

(西内委員)

私たちの学校の1年間を紹介します。4月は、1年生を歓迎する行事で一緒に体を動かしたり、話したりすることによって、私たちはすぐに仲良くなります。高知県障害者スポーツ大会が終わると1年生は校内での実習、2・3年生は現場実習です。10月になると全学年が現場実習に行きます。

(奥村委員)

11月には1年生は宿泊学習、2年生は修学旅行があります。12月にはステージ発表やアトラクション、作品展示など盛りだくさんの学園祭があります。1月には、また現場実習があります。

(西内委員)

私たちの学校の特色として、実際に働くことを経験し、卒業後の自分たちの進路を考え、いく上で欠かせない、年3回ある現場実習の他、作業学習などを行う職業版の授業があります。

私たちの学校には、物流実務、環境サービス、フードビジネスという3つの作業種があります。

(奥村委員)

物流実務は、企業が行う実務的な作業を実際に体験できる内容となっています。封筒作り、プラグ組み立て、ピッキングなど、企業の現場で行われている作業が同じように練習できます。

(西内委員)

環境サービスは、主に清掃作業をしています。学校内でチームで分担して掃除をし、慣れてくると、外部の公共施設などに出張清掃に行きます。トイレ清掃では、利用される方が衛生的に使えるように道具を使い分けるなどをしています。窓ふき清掃では、ガラスがきれいに保てるように、水滴が残らないように隅々まで丁寧に拭きます。私は、正確さと丁寧さを保ちながら、スムーズなスピードを意識して取り組んでいます。

(奥村委員)

フードビジネスでは、「イエロークロワッサン」というパン屋さんを開いています。これは、焼成といってパンをオーブンで焼いているところです。店内には、袋詰めしたパンをたくさん並べてお客さんを待ちます。営業日、厨房では、前の日に成型したパン生地いろいろなトッピングをしていきます。焼き上がったパンはすぐに冷まして袋詰めしていきます。ケーキも販売しています。私は主にケーキを担当しています。ぜひ、お店に買いにきてください。

(西内委員)

私たちは、自立活動という授業の時間を活用して、自分たちの夢や目標を話し合いました。そこで出た意見はご覧のようなものでした。

私は、将来ホームセンターで働きたい、もしくは、清掃の仕事をしたと考えています。そして、貯金もしたいです。

(奥村委員)

私は、人に優しくできる、人から頼られる人になりたいです。私たちの学校は、職業的な自立を目指す特別支援学校です。だから、私たちは、卒業後生き生きと働きたい、その仕事を続けていきたいと思っています。

なりたい自分になるために、私たちは日々こんなことを気を付けています。

私は自分の将来のために、積極的なコミュニケーションと明るく挨拶できることを頑張っています。

(西内委員)

私は、普段から貯金を意識して、必要性のないものは買わないようにしています。作業や体験で仕事内容と流れを地道に学んでいます。

私たちの夢を実現するために学校の授業や行事は必要だし、充実していると思います。けれども、もっとこうなったらいいのにと思うことがやっぱりあります。例えば、アルバイトしてみたいと思う人が多いのですが、校則でアルバイトには制限があります。気持ちを落ち着かせるために、先生に相談したいと思うけれど、時間が取れないということも多いです。また、私たちの学校は、元々、高知ろう学校の敷地を利用して建てられたため、学校が狭いです。更衣室の広さも十分ではありません。私は季節による制服の期間を自由にできたらいいのにと 생각합니다。

(奥村委員)

私は学校のルールをもっと分かりやすくできたらいいと思います。私たちの10年後はどんな学校になっているんだろう。そんなことを授業の中で考えました。私は、悩みを友だちや先生に話しやすい学校になったらいいと思いました。

(西内委員)

私は、更衣室が学年別にできたらいいなと思います。そして、制服の期間も自由になっていたらいいなと思います。

(奥村委員)

10年後、私たちの後輩が楽しく元気に挨拶できる、今のように先輩も後輩もみんながお互いを思いあえる、生活しやすい学校であってほしいと思います。そして、後輩たちが働きたい、頑張りたいと思える社会が実現できると信じています。

(西内・奥村委員)

ご清聴ありがとうございました。

(三木課長)

西内さん、奥村さんありがとうございました。私も、実はこの会議の準備で学校に直接お伺いしたときに、まさに、奥村さんが「イエロークロワッサン」のために作っていたケーキもいただいたりしましたが、本当に立派な素晴らしいものでした。それから、ちょうどその日は実習だったんですね。職業実習だったと思います。いろんな場面場面で、恐らく将来に向かっていろんな経験、体験を積まれているんだなということが、私もこの会議を通じてすごく分かりましたし、今のお話の中でも、いろんな体験をされている

んだなということが、皆さんにもよく伝わったのではないかなと思います。

では、生徒の委員の皆さんから、早速ご意見ご質問等いただきたいと思いますが、いかかでしょうか。では、先に山下さんからいいですか。

(山下委員)

イエロークロワッサンのことで質問なんですけど、実際に接客したときの感想はどうでしたか。

(奥村委員)

接客に必要な言葉遣いなどと、笑顔での挨拶や、挨拶されたときに戸惑わずに答えるのが少し難しいです。

(三木課長)

私も実際に、奥村さんが接客されているところを見てみたいなと思いました。多分、すごくしっかりされているのではないかなと思います。ありがとうございます。では、前田委員も挙手いただいていたと思いますので、次にお願いします。

(前田委員)

多くの職場体験を経験していると思いますが、働いていてやりがいを感じたこと、うれしかったことなどがあれば教えてください。

(西内委員)

そうですね。自分がやりがいを感じたこととしては、やっぱり、いろいろ作業をしているうちに、失敗やミスが起こるんですけど、でも、それをそのまま放置するのではなく、自分でその後振り返りをして、次はどうしたらいいのか、次はどのようにしたらいいのかということを前向きに考えながら、次の仕事に立ち向かうことがやりがいに感じていることです。うれしいことは、やっぱり自分は環境サービスという清掃の仕事が特に多いんですけど、清掃が終わった後に、同級生とかの皆さんに、環境サービスが掃除したおかげで、学校がきれいにできていて、いいなと思いますっていう声も聞こえたり、いつもありがとうっていうコメントをいただいたときにうれしいなと感じています。

(前田委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

ありがとうございます。他の委員の皆さんからは大丈夫そうでしょうか。では、教育委員の皆さまからコメント、ご質問等あれば頂戴したいと思いますけれども、町田委員お願いいたします。

(町田委員)

西内さん、奥村さんありがとうございました。すごく体験学習というか、自分自身、高校生のときを振り返ると、こういう当たり前に使っている場所をきれいにしている人のことを考えたりとか、パンをすごく好きだったので買いによく行きましたけど、買うだけで、作る人の反対の相手の立場に立つっていうことを経験したことが、私は高校のときなかったです。なので、すごく貴重な経験をされているなと思うし、お話を聞いていて、将来の夢に、少し、今の経験が生かされているんだなって、すごく感じました。

例えば、環境サービスにおいては、本当に学校をいつもきれいにしてくれてっていうのを、やっぱりやってみて、やってみないと気づかないことってたくさんあると思うので、そういうことを、すごく一つ一つ自分で感じられているのが、きっと周りの方もそれを見てくださって、丁寧にきれいにしてくれているなっていうところが、学校の、本当にみんなのコミュニケーションにも、すごく役立っているんじゃないかなって感じました。

「イエロークロワッサン」という名前、すごくかわいいなと思ったんですけど、私もパンの中でクロワッサンが一番好きなので、単純にかわいいなと思ったんですが、この食に関しては、私、今食がメインのお仕事をしています。作ったものをどう売るかっていうところもお手伝いをしているんですけども、作る裏側を見るっていう経験も本当に貴重だなと思いますし、おいしいものを作るっていうのは決して当たり前じゃないので、おいしいものを作ってありがとうって言われる、そのコミュニケーションがすごく、今、奥村さんが優しいコミュニケーションが溢れる学校になったらいいなっていうのは、きっと、このパンの匂いとか漂っていると思うんですけど。すごいパンの匂いって優しくなるなっていうのも私も常日ごろ思っているので、そういうおいしい食を中心にして、コミュニケーションが優しく広がっていく学校なんだなと思うと、すごく行ってみたいなって思います。ありがとうございます。ぜひ、その経験を皆さんに伝えて、もっと魅力的な学校になるといいなと思います。ありがとうございます。

(三木課長)

町田委員、ありがとうございます。何かお2人からお返しはありますか。ぜひ来てくださいというようなこともおっしゃっていましたが。

(奥村委員)

イエロークロワッサンは、水曜日と木曜日にやっているの、ぜひ来てもらいたいなと思っています。

(三木課長)

ありがとうございます。非常にいろんな形で夢に向かって進んでおられるお2人の発表ですし、同じく多分一緒に、クラスの、学年のみんなも、この資料を作るのに協力してくださったと思います。そういう意味では、みかづき分校の皆さんの発表だったと思いますので、本当に素晴らしい発表に感謝したいと思います。ありがとうございます。

では続きまして、土佐女子高等学校の前田玲委員からの発表をお願いしたいと思います。
では、よろしくお願いいたします。

(前田委員)

土佐女子高校2年の前田玲です。よろしくお願いいたします。

私には、まだ夢がありません。将来、どんな職業に就きたいのか、自分の得意分野は一体何なのか模索している最中です。私の母はピアノを教えたり演奏をしたりという仕事をしていますが、練習は多くの時間がかかり大変そうです。しかし、とても楽しそうに、やりがいを感じながら仕事をしているので、私も自分の得意なことや好きなことを仕事にできたらいいと思います。ただ、今の高校生活はとても楽しいのですが、目の前のことに追われ、それを一つ一つこなしていくことに必死で、毎日忙しく、夢をじっくり考える時間が足りないのが現状です。

そこで、世界で一番賢い国はどこなのか。その国の高校生たちはどのような生活を送っているのかと聞いたり、調べてみました。

世界で最も賢い国はフィンランドでした。自然いっぱいの、のんびりしていそうなフィンランド、何だか高知と似ていると思いませんか。調べていくうちに、フィンランドは読書量は世界第1位、SDSNの世界幸福度レポートでも1位でした。幸福度は7年間連続1位のようなようです。勉強に追われ、読書をする時間のない私にとっては不思議です。フィンランドの教育観は「学校は楽しく、おもしろい場所にする」です。そして、学習時間が短ければ、その分、集中して学習をすることができるようになり、脳が鍛えられていくという考えです。また、自由時間がきちんと確保されているので、自分の得意分野を見つけたり、個性や能力を伸ばしたりする機会につながり、子どもの自己肯定感を伸ばすきっかけにもなると考えています。

次に、フィンランドの教育システムを調べてみました。義務教育は日本と同じ中学生まで。夏休みは約2カ月。高校では自分で授業を組むこと、です。これについて、1年で取るべき単位、必須科目は決まっていますが、その中で自分で1年間、どのようなスケジュールで学ぶか、どのレベルの科目を取るかなど、アドバイザーの先生と決めていきます。例えば、数学なら分かりやすく丁寧な授業の短い数学と、スピードが早く得意な人向けの長い数学と分けられます。英語はレベル1・2・3と分かれていて、自分に合ったものを取ります。

宿題は、エッセイやプレゼンテーションなど、学力テストや偏差値もなく、学校が十分な教育を提供するので塾もありません。受験はなく、これは小中一貫、高校は同じ自治体または近隣する自治体の希望校に出願するためです。例外は、音楽高校を規模する場合のみで、そのときは実技の試験もあります。

フィンランドの全国的な試験は、高校卒業試験と大学入試の2つだけです。そのための勉強をするだけで大丈夫です。高校卒業試験は年に2回、3月と10月です。うまくいかなかった場合、3回まで受けられます。それでも駄目なら浪人するそうです。受ける科目と科目数は自分で決めます。最低4科目、10科目受ける人もいます。高校卒業試験は、人生

の通過儀礼です。高校卒業後、すぐに大学に入学するわけではなく、卒業後に何をするか、大学に入学するとしたら、それはいつなのかは本人が決め、親は関わりません。

私の友人は3年間、タイのインターナショナルスクールで学んだ経験があるので、そこでの生活を聞いていました。まず、大きな違いは授業の仕方。日本のように先生の講義を聞いて、ひたすら覚えていくという一方的な学びではなく、先生の講義の後、実際にどれほど理解をしているか、自分自身を把握できるように、何かしらアウトプットできる授業が確保されています。

例えば、スライドショーを作って、クラスメイトの前で数分のプレゼンをし、そこで先生や生徒の質問に答える準備をすることで、知識の定着につながるものです。彼女は下校時間は15時ぐらいまでで、スポーツクラブへ行ったり、家で読書をしたりと、自由時間が多かったと言っていました。そのような学校生活だったので、みんな個性があつてとても楽しかったと教えてくれました。フィンランドと似ているなと思いました。

以上のことを踏まえ、私はもう少し自由時間のある高校生活を送れるようなカリキュラムにしてほしいと思います。例えば、毎週水曜日の午後からは、自分の好きな勉強に費やす時間にするなどです。そして、記述式の試験ばかりではなく、クラスメイトや先生とディスカッションをするような時間を多く設けてほしいなと思います。そういった時間を過ごすことで、自然と夢や目標が見つかるかもしれません。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

(三木課長)

前田委員、ありがとうございました。国によって、いろんな教育の形が違うなということ調べたり聞いたりして、まとめていただいたんですね。それから、大変お忙しい中、もうちょっとゆとりがあった方が、多分、それは前田委員がというよりは、今の高校生みんなが、もしかしたらそうなのかもと思うんですけども、そういう中で自分で考えて、自分で得ていくというのが大事だという発表だったのかなと聞かせていただきました。

では、この発表に関して、何か生徒の委員の皆さんから、質問やコメントがあれば頂戴したいと思います。

(奥村委員)

最初に、まだ将来の夢がないと言っていましたが、将来やるとしたら何をやりたいのでしょうか。

(前田委員)

今はまだやっぱり決まってないのが大きいんですけど、このプレゼンテーションを通して、自分の楽しいことは何なのか調べることができたので、だんだん自分のやりたい夢が見つかるようにはなってきたかなとは思っています。

(奥村委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

このプレゼンテーションに、そんな副次的効果があるとしたら、とてもありがたいなと思います。

では、藤本委員から挙手をいただいたと思いますので、お願いします。

(藤本委員)

発表ありがとうございました。世界でもっとも賢い国はフィンランドということで挙げてくれたと思うんですけど、その中で、教育観とか教育システム、あとフィンランドでの試験っていうのを挙げてくれたと思うんですけど、その中で一番、前田委員さんの魅力的に感じたところっていうのを教えてほしいです。

(前田委員)

そうですね、余暇が、夏休みが2カ月あるということです。日本はやっぱ1カ月しかないし、外国は2カ月あるので、その期間、自分の興味のあることにチャレンジする期間があるから、それで自分の夢に近いものを探することができる期間が大きいので、余暇が多いところがいいなと、私は思いました。

(藤本委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

ありがとうございます。他の委員からはどうでしょうか。大丈夫そうですか。

では、教育委員の池委員さん、ご意見をお願いいたします。

(池委員)

前田委員さん、素晴らしい発表ありがとうございました。すごく上手な発表でした。それから、よく調べられているから驚きました。

まず初めに、フィンランドの教育というのは世界的に有名です。どうして有名になったかということ、25年ぐらい前にOECDという先進国34カ国の15歳を対象とした世界的なテスト、PISAテストというのがあって、それでフィンランドは読解力、それから数学的リテラシー、科学的リテラシーがダントツだったんです。リテラシーというのは、科目の知識と、その知識を活用する能力を問う部分の意味ですけど、結局、活用力がある生徒さんが、15歳でたくさんいるということです。ちょっと日本もそれまでは、知識注入型の教育が主流だったんで、これはまずいなということになって、文部科学省が動き始めたきっかけになった国です。

前田さんが紹介してくれたように、フィンランドの教育の特徴というのは、先生の力を借りながら生徒自身が問題解決をしていくという授業形態だし、一人一人の子どもを本当に大切に、その進度に合った授業を展開していく、教育を展開していくという部分でもものすごくりっぱな教育をされていたということです。最近、日本がフィンランドの教育を研究して、学習指導要領という文部科学省が出している、先生方にこのように指導をしていきなさいというような約束事があるものの中に、やっぱり生徒の主体性、それから対話的な学び、それから深い学び、これをこれから進めてくださいという方針を打ち出しました。その他にも、教科横断型という、理科や社会という分野に分けずにいろんな教科を混ぜながら勉強しましょうとか、あるいは1人1台のタブレットを配って、子どもたちがいろんな発信ができるようにしましょうという作業をしています。

全国学力・学習状況調査というテストを実施して、それはほんとにPISAテストを意識した、知識だけではなくて、知識を活用する力を問いたい、というのを、全国の小学生、中学生に試験を課していくような形になりました。その結果、日本の教育というのは、やっぱり知識注入型とするのは得意ですし、新たにフィンランドのやり方を加えて、2018年にフィンランドを抜く形になりました。今は、日本は多分トップクラス、1位、2位のところに読解力も数学的リテラシーも科学的リテラシーもいっていると思います。

というのは、比較的、義務教育、小中学校でそれが広がっている。ところが、高等学校では、それはもちろん学習指導要領というのは、高等学校の先生方にもお示しされているわけですから、それを進めないといけないんだけど、それが意外と進んでいない事実があるんです。

それはなぜかという、1つには大学入試という形が日本にあって、大学入学共通テストというのがあります。それが面接とか小論文で採点したいな、評価したいなという思いもあるけれども、約50万人が受験してる試験なので、時間的にも不可能だし採点の公平性の点ですごく難しい部分があって、やっぱり知識を問う問題であったり、正解を求める形になっている。だから、高等学校の先生方というのは、もちろん探究型の、問題解決型の授業を本当はしたいんだけど、どうしても子ども達の進路を実現したいということで、どうしても知識注入型の授業になっていくという部分があります。

ただし、個別の大学ではAO入試とか推薦入試という、特別な、多様な選択肢を持って子ども達を入学させるという学校も増えてきたので、これからは、高等学校の先生もフィンランドの教育のいい部分も授業の中に入れながら、知識注入型と課題解決型とのバランスをうまく取りながら、授業を進めていくということが、これからの高等学校の先生の役割になってくるのではないかなと思います。きっと、土佐女子高校の先生方もそれを考えてくれていると思うので、これから少しずつ変わっていくのではないかなと思います。

大学の話ばかりでしたが、大学だけじゃなくて、社会へ出て問題解決能力、課題解決能力みたいなものは、非常に大事なものであって、これからも高等学校で、そういうのを授業の中でも授業以外でも含めて、見つけていただきたいと思います。以上です。ありがとうございました。

(前田委員)

ありがとうございました。

(三木課長)

池委員、ありがとうございました。やはり、最初の羽屋戸委員の発表にもありましたように、やはり探究とか、自ら選んで学習したいというのは、その後のどの委員の発表にも共通するのかなと思いましたが、それを受け止めて、我々としても考えていかなければいけないのかなということを強く思っています。本当に調べの深さもそうですし、大変刺さる発表をいただいたと思いますので、ありがたいなと申し上げたいと思います。

(前田委員)

ありがとうございました。

(三木課長)

では、続きまして、発表のトリになりますけども、岡豊高校から山下委員に発表いただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

(山下委員)

岡豊高校3年の山下蒼生です。まず、岡豊高校について紹介していきたいと思えます。

岡豊高校は現在、約900人程度の生徒が通っています。今年度で創立42年目を迎えました。一昨年度の40年記念では、ギタリストの山下俊輔さんや、元プロ野球選手の入野貴大さんを記念式典にお招きし、盛大な式典が行われました。

そして、岡豊高校は普通科、ビジネス系コース、生活文化系コース、芸術コース、体育コースがあり、県内で最も生徒数が多い高校で有名です。そして、私が所属している芸術コースは県内で唯一、美術と書道が専門的に学べます。芸術コースはアットホームな雰囲気、先生と生徒の距離感が近く、生徒の個性や夢に寄り添うことを目指すことを教育方針にしています。

それでは、本題に移りたいと思えます。岡豊高校芸術コースの音楽、美術、書道の魅力についてお話します。

専門性の高い授業で、1年次から進路への意識が芽生え、音楽の先生やプロ奏者、美術大学に進学、プロの画家・書道家など、将来の進路、進学等を見据えたステップが踏める、「自分にしか出せない音色」や「自分にしか描けないもの」、「自分の言葉で伝える力」が育つ環境が魅力だと思えます。

私たちが通っている今、感じている不満に思っている点についてお話します。芸術コースの生徒数が少なく、あまり自己成長がしにくく、あまりいい練習や作業ができないこと。個人で練習できる場所等がありません。そして、生の演奏や生の絵画を見る機会がとて少なく、勉強する機会がとて少ないことです。

このような課題をもとに、理想の学校教育とは、についてお話していきたいと思えます。

生徒一人一人の可能性を引き出す教育、学校の中で完結しない社会や世界とつながる学び、知識や技術だけではなく、好きや関心が社会と結びつく環境が理想だと思います。岡豊高校での学びの充実とは、先生との距離が近く、安心して相談・挑戦できる環境があります。認められたい、応えたいが学びの原動力になる、隠れた特技を引き出してくれる先生の存在です。ただし、距離感が近すぎるとなあなあになる懸念もあるから、適切な距離感と尊敬のバランスが大事になってきます。

最後に未来の岡豊高校に向けた提案についてお話します。もっとこうだったらの視点から、まず、SNS アカウントを開設し、各コースのことについてや、生徒作品等を配信することです。投稿することによって、芸術コースの魅力が県内外の人たちの目に止まり、生徒の人数確保につながると思います。

次に、芸術科がある県外の高校生たちと交流し、合同演奏会や合同展示会、オンライン制作会などを開き、他の生徒の表現と触れ合うことで、自分の価値観に変化が生まれたり、視野が広がり、作品の完成度が上がることにつながります。そして、南国市はもちろんのこと、高知県の地域のイベントにお招きしてもらい、知名度アップにつなげられるように芸術コースでそのイベントを盛り上げるようにすることです。

このようなことをすると、少しでも岡豊高校芸術コースはにぎやかになり、全国でも有名な高校になるかもしれません。これからの岡豊高校、そして、高知県の教育のあり方が少しでも変わることをお願いして、私の発表を終わりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

(三木課長)

山下委員、ありがとうございました。岡豊高校の芸術コースのことについてのお話をいただいた上で、普段抱えているいろんな課題の解決のために、こういうことができるんじゃないかという、かなり具体的なお提案をいただいたかなと思います。

地域のイベントにお招きいただきたいという話もあったと思いますので、地域の中で、というのは他の委員の発表にもつながってくるのかなと思います。

生徒の委員の皆さんから何かコメントや質問等いかがでしょうか。藤本委員さん、お願いします。

(藤本委員)

発表ありがとうございました。伊野商業も公式の SNS アカウントを開設していて、フォロワー1,000 人も達成していて、すごくいい意見だなと思っています。最初の方に、全校生徒 900 人と聞いたんですけど、伊野商業は生徒数は結構少なく、生徒数が多くて得られたメリットというか、生徒数が多くていいなと思ったところとかあれば教えてほしいです。

(山下委員)

生徒数が多くていいなと思ったことは、学校行事などでいろんな人達と交流ができるこ

とが、とてもいいことだなと思います。そして、学年関係なしに、みんな仲がいいので、それもいいところだと思います。

(藤本委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

ありがとうございます。では、続いて羽屋戸委員、お願いします。

(羽屋戸委員)

芸術コースのことについて聞かせてもらったんですけど、芸術コースに入った理由はありますか。

(山下委員)

私は音楽コースに入っているんですけど、私自身、小さいころからとても音楽が大好きで、中学校に入ってから吹奏楽部に入って、ホルンっていう楽器をしていました。高校に入ってからホルンを続けたいと思ったことや、技術力を上げたくて、あと、家から近かった岡豊高校には音楽コースがあるということを知ったので、それで音楽コースに入りたいと思いました。

(羽屋戸委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

では、前田委員お願いします。

(前田委員)

1つの学校に、普通科と芸術コースがあることによるメリットとデメリットを教えてください。

(山下委員)

メリットは、いろんな進路の選択とかもできるし、自分がやりたいコースに入れることはとてもいいことだと思います。デメリットは、やっぱり普通科は人数が多いんですけど、ビジネス系、生活文化系、芸術、体育コースはとても人数が少なく、やっぱり交流がでないっていうところがデメリットかなと思います。

(前田委員)

ありがとうございます。

(三木課長)

ありがとうございます。西内委員とか奥村委員は、大丈夫ですか。

では、教育委員の皆さまからコメントを頂戴したいと思いますけど、いかがでございませうでしょうか。では、弥勒委員、お願いします。

(弥勒委員)

教育委員の弥勒です。山下さん、本当にありがとうございます。子どものころから、そういう楽器、ホルンですか。金管楽器になるんですね。そういう得意な分野を見つけて、もしかすると、それは将来の夢にもつながっていくのかなとお聞きしました。ありがとうございます。

僕自身は、歌を歌うのも下手ですし、音楽はからきし駄目なものですから、何か本当に羨ましいなと思います。僕はスポーツが好きなんですけれども、ホルンと、場合によっては例えば、オーケストラとか、一人だけでやる仕事というか、カテゴリーではないのではありませんかと思いました。スポーツの世界でよく言われることは、いかにチームワークが大事かということです。何年か前に、サッカーのワールドカップで、三苦の1ミリとかいう話もありましたけども、ああいう場面でも背景にあるのは、個人プレーではなくて、チームがお互いに助け合うということをして90分間すごく熱心にやっていた結果が、ああいうところに集約されていると思うんですね。

ですので、先ほどのプレゼンテーションをお聞きしていても、非常に先生と生徒の間が仲がいいというようなお話もありましたし、先ほどの課題のときに申し上げたのは、学校での授業というか、活動というのが、脳を鍛えるということで、これからの、本当に勉強に集中できるのは、やっぱり学生のとかが1番だと思うんですね。

僕自身はせっかくの大学時代をテニスばかりで過ごしてしまったので、もったいないことをしたなと、親には本当に申し訳ないなと思っています。やっぱり勉強というのは、僕は一生続けるべきもので、続ける価値のあるものだと思うんですね。人間が成長するために、死ぬまで勉強を続けるというぐらいに思ってるんですけども、学生のとかが一番勉強に多くの時間を充てられる時期ですので、その時期をすごく大切にしていきたいという思いをいつも持っています。

それで、知識を習得するのは、先ほどありましたけども、本当に、例えば、課題解決能力だとか、いろんな能力を鍛える場が学校だと思いますけれども、それと同時に、コミュニケーションの能力を鍛えるというか、自然に鍛えられる場でもあると思うんですね。コミュニケーション能力はこれから将来、どのような仕事に就くにせよ、どんなにITが進歩しようが、結局は人と人との間のコミュニケーション能力というのは、最後まで、絶対重要性は失われなと思いますので、本当に、今お話をお聞きして、山下さん、これからもホルン、それから、いろんな学業を頑張りたいと思いました。ありがとうございました。

(三木課長)

弥勒委員、ありがとうございます。山下委員、何かコメントはいかがですか。これからもホルンを続けてほしいということでしたけど、いかがでしょうか。

(山下委員)

自分自身の将来の夢なんですけど、警察事務になりたくて。警察事務になった上でも音楽隊に入って、それでホルンを続けていくつもりなので、勉強とかもやっぱり重要なので頑張っていきたいと思います。

(三木課長)

ありがとうございます。一言だけ触れておきますと、今日、山下委員から発表いただいたスライドは、非常にデザイン性が高いなど、お聞きの皆さんは思われたかもしれませんが、同じコースで美術を専攻されていて、今日マイクランナーなどを手伝ってくださっている生徒さんに、ご協力いただいているということですので、いろんな方の声も聞きながら、こういうふうに仕上げていただいたかなということ、大変ありがたいなと思います。

(三木課長)

ということで、5校・6名の委員の皆さんからお話をお伺いしました。本当に、事前の準備から本当に皆さんいろいろお忙しい中、多分定期試験にも重なったと思いますし、夏休みにも入ってしまいましたし、いろんな諸活動があるということ、いろんな報道でもお名前を拝見する中で、いろんな形で思いを伝えるプレゼンの準備をさせていただいて、今日発表いただいたことに、改めて心からお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

それでは、ここからの進行については、司会の方に戻したいと思います。よろしく願いいたします。

(司会)

最後に知事と教育長の方から、各位の発表へのご感想や総括を頂戴できればと思います。まず、今城教育長からお願いします。

(今城教育長)

ありがとうございます。せっかくの機会ですから、ちょっとひと言、それぞれの発表に対して述べたいというふうに思います。

まず初めに羽屋戸さん、窪川で育って、そしてこの高知県で小学校の先生になりたいということで、その夢も、それからきっかけもお聞かせいただきまして、ありがとうございました。それから、現在も海外へ短期で留学されたり、そして、学校の中ではプロジェクト学習、こういったことを通して、自ら行動する、そんな経験をされているということで、

本当に素晴らしいなと思いました。そうした今回の提案でもプロジェクト学習を、もっと増やしたらいいとか、それから、職業体験をもっと増やしたらどうですかというご提案は、本当に我々としてもしっかりと受け止め、今後、真剣に検討してまいりたいと思います。ぜひ、教育委員会としても先生になりたいということ、とてもありがたいなと思っています。ありがとうございます。

藤本さん、高知の地域のリーダーとしてなくてはならない人になるって、本当に力強い目標に私は感銘を受けましたし、このプレゼンの資料、私も参考にさせていただきたいなと思いました。また、アンケートのご紹介ありがとうございました、学校が楽しいという生徒さんがいる一方で、義務感で通っているという、そういった正直なお声をいただいたことは、とても貴重だなと思いました。それと、先生に相談しにくいということは、やっぱり大きな課題だなとも感じたことでした。そして、藤本さんの視点、学校は自分が成長する場所であってほしい。これは本当に大事なこと。教育者として心にとどめておくべき大切なことだなということ、改めて感じました。自らアンケートを取ることで自分がまさにリーダーシップの表れだなとは思ったところです。

それから、西内さんと奥村さん、ありがとうございます。私も実は4月に学校にお邪魔いたしましたし、ちょうど行ったときに、イエロークロワッサンの仕込みをしている日でした、さらにいうと、イエロークロワッサンの窓を清掃している、そういった両方の授業をちょうど見させていただきました。西内さん、ホームセンターで働きたいという夢、そして奥村さん、人から頼られる人になりたいということ。夢ってやっぱり職業だけじゃなくて、どういう人間になりたいのかっていうことも、私は大事だなと思ったことでした。お2人からもやっぱり、悩み事をしっかりと先生の話すことが、ちょっと少ないなというご指摘、先ほどの藤本さんもそうでしたけれども、がありました。それはとても大切なことですので、皆さんの学校生活をより充実したサポートができるような、そういった取り組みにつなげていきたいと感じました。ありがとうございます。

それから前田さん、全国大会に行かれていたんですね。前田さんは、将来の夢はまだ決まっていないというお話でしたが、これに向けて意欲的に、海外のことなんかも調べている。勉強って、知識とか考えを發表するというのも大事ですけど、私は何よりも意欲、これがトップだと思うので、この気力があること自体が、とても私は素晴らしいことだなと感じました。また、そういう意味で今回、知識だけじゃなくてアウトプットを重視したほうがいいんじゃないかという、前田さんの提案というのは、まさに今、池委員からもありましたように、今力を入れている授業のスタイルでもありますので、また私たちも、そういったことをより発信していきたいなと感じました。ありがとうございます。

山下さん、ホルンですね。音楽コースでこれ続けながら、さらに就職にも生かしていきたいと。続けていきたいという具体的な、明確な目標も素晴らしいなと思いました。自分の得意なことを深めつつ、社会にも貢献していきたいというところが、すごく素敵だなと思いました。まさに、学びと社会をつなげる、そういった理想の形だなとも思いました。さらには、プロの演奏を聞く機会がやはり必要ではないかな、そして、地域と関わる機会を生み出していくことという、このご意見もやはりこれからも、私たちも、もっと具体化

していきたいなと感じたことです。ありがとうございます。

高校生の皆さん、本日は本当に貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。皆さんの熱い思い、そして具体的な提案を、こうやって直接お会いしてお聞かせいただいたということは、私自身も大変勉強になりました。お一人お一人の話から、ご自身の将来について真剣に考える。そして、高知県をよくしていきたいって、そういった強い気力が伝わってまいりました。

本日、皆さんからいただきました貴重なご意見は、これからの高知県の教育をどうしていくのかということを考えていく上では、私達にとってとても大切な道標になると思いますので、しっかり受け止めて、そして、今皆さんがよりよい学校生活を続けていくために、どういうことができるのかなということも、これから検討してまいりたいと思います。ぜひ、これからも皆さんの若い力というか、柔軟な発想というか、そういうことで高知県の教育、高知の未来をもっと盛り上げていっていただきたいと願っています。皆さんの今後の活躍を大いに期待しております。本日はどうもありがとうございました。

(司会)

ありがとうございます。濱田知事から会議の総括をお願いします。

(濱田知事)

今日は6人の委員の皆さん、本当にありがとうございました。ただ今、今城教育長からお話ありましたし、私自身も自分の高校生の頃のことを思い浮かべたときに、率直に言って、皆さんからお話いただいたように、何のために学校で勉強をしているんだろうと突き詰めて考えたことがどれだけあったかなと、胸に手を当てると、ちょっと恥ずかしい気持ちもしました。

私の場合はどっちかという、先輩もずっとこうやってきてるんだし、上の学校に行こうと思えば、頑張らなければいけないなということで、勉強に励んでいたという感じです。皆さん6人の方、それぞれ口々に強調して言われていたのが、受け身の形ではなくて、自分で考えてよくしていきたい、地域をよくしていきたい、そういう思いの中で、例えば、自分で何のためにというところを考えると、目標を設定していこうということだとか、コミュニケーションを周りの方と取っていくことで改善していこうとか、そういった形で、あるいはプレゼンテーションやディスカッションをする力を身に付けていこう、そういった具体的な目標を設定することで、受け身にならずに、自分で考えてものを改善していくんだ、よくしていくんだという考え方でプレゼンテーションをいただいたということは、本当に素晴らしいと思いますし、皆さん、しっかり考えてくれているなということで、大変心強く思いました。

本当言うと、私、冒頭、自分の夢を叶えるために県外に行くのは応援しますと申し上げました。しかし、やはり嬉しかったのは、皆さん、それぞれ地元の高知で、高知をよくするために、自分も貢献したいという夢を持っていただいて、具体的な目標を胸に抱いて勉強を進めていただいているというのは、本当に嬉しく思いましたし、とても心強く思いま

した。ぜひ一緒に高知を盛り上げていきたいなと思います。

そうは言いましても、私が高校生時代というのは、もう40年以上前です。特に羽屋戸さんからの発表にあったような窪川高校のいろんな面での手厚いカリキュラムであったり、支援の仕掛けなんかをお聞きすると、皆さん、私なんかは高校生の頃よりは、いろんな意味で恵まれている条件で勉強いただいている部分も、結構あるなというのは、正直思いました。我々の頃は、県内で同級生が1万2,000人いた時代です。皆さんの学年は、多分5,000人ぐらいになっていると思うので、倍以上の密度で先生方、そして、学校のスタッフの皆さんからバックアップいただけるという環境にあるんだろうと思います。そういう部分では、皆さん、羨ましいなと思う部分がありました。

でも一方で、いろんな学校の物理的な環境ですね、エアコンだったり更衣室だったりということで、もう少しこうだったらという率直な要望もお聞きました。すぐできること、時間がかかることがあると思いますけれども、より皆さんのご要望をしっかりと聞きながら、発表も聞いておりました。私、奥村さんが言われた中で、10年後、後輩たちが10年後に勉強する頃にはこうなっていてほしいなという思いでまとめていただいたのは、本当に嬉しい気持ちでいっぱいです。自分たちが今ということももちろんですけども、自分たちの後輩のことを考えて、後輩たちがよりよい環境で勉強できるように、問題提起もしていきたいんだという思いは、本当に大事にしたいなと思いますし、我々も教育委員会の皆さん、そして、県庁全体でも皆さんの思いを受け止めて、できることから改善していきたいと思います。

今回、皆さんの発表では、大変ご準備に時間を割いて努力いただいたと思います。本当にお疲れ様でした。そして、皆さんのサポートしていただいたご友人、学校の先生方もたくさんおられるかと思えます。この場で、心から感謝を申し上げたいというふうに思います。

冒頭、申し上げましたように、今やはり高知県は若者、女性に選ばれる高知県を、どうつくっていくかというのは、本当に大事な命題になっていると思います。そういう今のこの流れの中で、若者の若者であり、最前線で今まだ勉強していただいている高校生の皆さんから、率直にこういうご要望が聞けたこと。そして、ご要望ももちろんでありますけども、そこに至るまでのところで、やはり自分たちで何とか地域もよくしていきたい、今よりよくしていきたい、地元のために頑張ろうという思いで、努力をしていただいているということは、本当に大変うれしく思っておりますし、ぜひ、そうした気持ちで一緒に高知をよくしていきたいと思えます。こうした形で、皆さんとの対話を引き続きさせていただく中で、高知の元気な未来を一緒に開いていきたいと思っております。

今日は本当にありがとうございました。

(司会)

ありがとうございます。それでは、以上をもちまして次世代総合教育会議を閉会させていただきます。委員の皆さま、学校関係者の皆さま、本日お越しいただいた保護者の皆さま、オンライン配信を見ていただいた各関係者の皆さま、本当にありがとうございました。